

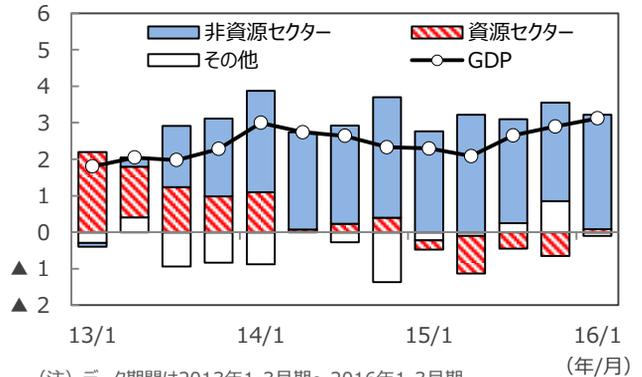
今日のトピック 最近の指標から見る豪州経済（2016年6月）

非資源セクターが景気の拡大を牽引

**ポイント1 非資源セクターが成長の柱
景気は堅調に推移**

- 2016年1-3月期の実質GDP成長率は、前年比+3.1%となり、市場予想の同+2.8%を上回りました。輸出の拡大によるものです。
- 豪州は「資源国」のイメージが強いのですが、GDPの需要項目を資源セクターと、非資源セクターに分けると、実際は非資源セクターが全体の成長を牽引しているのが見て取れます。
- 非資源セクターの需要は、企業の景況感との間に強い連動性を持っています。その企業景況感指数は上昇基調にあることから、非資源セクターの需要は当面、安定した推移が見込まれます。

GDP成長率と需要項目別寄与度
資源セクターと非資源セクター

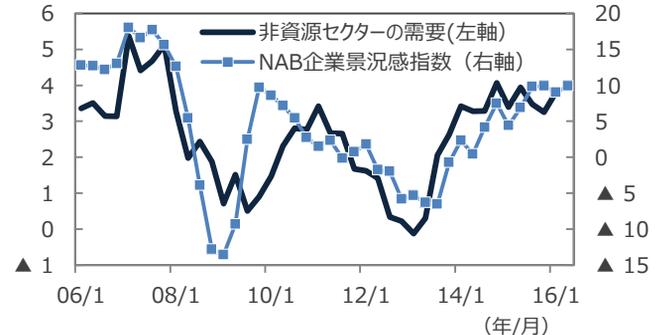


(注) データ期間は2013年1-3月期～2016年1-3月期。
非資源セクターは家計消費、政府消費、住宅投資、非鉱業投資、サービス純輸出。資源セクターは鉱業投資、財純輸出。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 政策金利は据え置き
物価は安定**

- 豪州準備銀行（RBA）は、6月7日に開催された金融政策決定会合で、政策金利を1.75%に据え置きました。
- 市場には、利下げ期待がありますが、豪州の景気が安定した推移を辿っていること、景気拡大により消費者物価上昇率は低い水準ながらも持ち直すと見られることなどを踏まえると、政策金利は当面、据え置かれると考えられます。

非資源セクターの需要と
企業景況感指数



(注) データ期間は需要が2006年1-3月期～2016年1-3月期。企業景況感指数は2006年1-3月期～2016年4-6月期。非資源セクターは家計消費、政府消費、住宅投資、非鉱業投資、サービス純輸出の合計。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 日銀の金融緩和期待が円高・豪ドル安に歯止めをかける公算

- 米国の追加利上げ観測後退や、欧州連合（EU）離脱の是非を問うイギリスの国民投票への不透明感の高まりなどから、安全通貨とみなされる円への需要が強まり、豪ドルの対円レートは下落しています。
- 物価の低迷や円高地合いの継続から、日銀の追加緩和観測は継続する見通しです。英国のEU離脱というリスクはありますが、金融緩和の観測が円高・豪ドル安に歯止めをかけることが期待されます。

ここもチェック! 2016年6月10日 豪ドルの足元の状況と今後の見通し
2016年6月7日 豪中銀、政策金利を据え置き、豪ドルは底堅く推移しよう

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。